



平成25年12月17日

平成25年度第7回定例記者会見開催のお知らせ

日時：平成25年12月25日（水） 11:00～12:00

場所：豊橋技術科学大学事務局3F 大会議室

＜記者会見項目予定＞

- ①マレーシア・ペナン州にペナン校開校！ペナン校を拠点に海外実務訓練を開始
－豊橋技術科学大学：三機関連携・協働教育改革主体事業－（別紙1参照）
- ②専門家と一般人による真珠品質判断 ～良い真珠は誰でも分かる？（別紙2参照）
- ③研究推進アドミニストレーションセンター（RAC）を設置（別紙3参照）
- ④地域地震防災コース（別紙4参照）
- ⑤次回の定例記者会見の開催について（別紙5参照）

※主に①、②について、記者会見を行います。

＜本件連絡先＞

総務課広報係 山内・小島・荒井

TEL:0532-44-6506 FAX:0532-44-6509



国立大学法人豊橋技術科学大学 *Press Release*

平成25年12月17日

マレーシア・ペナン州にペナン校開校！ ペナン校を拠点に海外実務訓練を開始 －豊橋技術科学大学：三機関連携・協働教育改革主体事業－

豊橋技術科学大学は、12月4日にマレーシア・ペナン州にて、豊橋技術科学大学ペナン校の開校式を国内外の注目を集めて盛大に行いました。

オープニングセレモニーでは榊学長や政府関係者らおよそ300名が出席し、榊学長による挨拶の後、榊学長と来賓者によるテープカットを行い、マレーシアの伝統的なライオンダンス（獅子舞）等で開校を祝いました。



記念テープカットの様子

（左から、（独）国立高等専門学校機構 小畑秀文 理事長、長岡技術科学大学 三上喜貴 副学長、文部科学省 金子実 視学官、豊橋技術科学大学 榊佳之 学長、マレーシア日本国大使 中村滋 氏、マレーシア科学大学副学長 シーチンメイ 氏、ミニサーキットテクノロジー会長 ケルビン氏）



ペナン校講義室



豊橋技術科学大学ペナン校

来年1月からは、学部4年次の学生21名（留学生5名を含む）を派遣し、ペナン校を1つの拠点として海外実務訓練を開始します。

【海外実務訓練（グローバル人材育成プログラム）日程】

- 1月5日 ペナン実務訓練生日本出発 → ペナン到着
 - 1月6－10日 マレーシア科学大学（USM）でのオリエンテーションと英語研修
 - 1月13日 企業での実務訓練開始
 - 1月下旬 ペナン校での講演会・集合研修・中間報告会
 - 2月24日 企業での実務訓練最終日
 - 2月26日 帰国
 - 3月3日 ペナン実務訓練報告会
- ＊期間中、指導教員を現地に派遣

【派遣先企業】

- ・ TORAY INDUSTRIES MALAYSIA（東レ）
- ・ Panasonic Automotive Systems Malaysia Sdn Bhd（パナソニック）
- ・ CLARION (M) SDN. BHD.（クラリオン）
- ・ Fairchild Semiconductor (Malaysia) Sdn Bhd（フェアチャイルドセミコンダクター）
- ・ Mini-Circuits Technologies Malaysia（ミニサーキットテクノロジー）
- ・ Qdos Flexcircuits Sdn. Bhd（キュードスフレックスサーキット）
- ・ NIPPON STEEL & SUMIKIN GLOBETRONICS TECHNOLOGY SDN. BHD.（日鉄住金）
- ・ KASATANI ADVANCE TECHNOLOGY SDN. BHD.（カサタニ）
- ・ FUJI SASH (MALAYSIA) SDN. BHD.（不二サッシ）
- ・ Ambu Sdn. Bdn（エイエムビーユー）
- ・ BL TAY ARCHITECT/BL & PARTNERS PROJECT MANAGEMENT SDN BHD（ビーエル ティーエイワイ アーキテクト/ビーエル パートナーズ プロジェクト マネジメント）

本件に関する連絡先

担当者 国際教育センター副センター長 梅本 実 TEL:0532-44-6709
広報担当：総務課広報係 小島・荒井 TEL:0532-44-6506



平成25年12月17日

専門家と一般人による真珠品質判断 ～良い真珠は誰でも分かる？

真珠の品質は一般人にも見分けられるものでしょうか？

一般人の判断は人によって、あるいは判断する度に判断結果が変わるなど不安定であるのに対して、真珠の専門家の判定は一般人に比べて安定しており、専門家の間で真珠品質に関する判定基準を共有していることが分かりました。

興味深いことに、一般人の約半数は、真珠の違いそのものは区別できているにも関わらず、「良い-悪い」の価値判断が専門家とは逆の傾向を示しました。このことから、「真珠の違いは区別できても、どれが良い真珠かという判断は経験によって変化する」ことを意味しています。

<研究概要>

数ある宝石の中でも、真珠はその美しさだけでなく貝が作り出すという出自の特殊性により、古くから世界中で珍重されています。およそ百年前に日本で養殖真珠の技術が確立されて以来、真珠の養殖は現在も盛んに行われており、産業として確立しています。

産出された真珠の品質は、熟練した養殖業者や加工業者の目視によって判定され、等級が決められています。専門家が真珠を見る際に重要視する項目は、形や大きさ、傷の有無、光沢の強さや色味（干渉色）などとされています。しかし、専門家の判断する真珠の良し悪しと、予備知識を持たない一般人の感性と一致するのかという根本的な疑問について、これまで学術的に検討されたことはありませんでした。

もし、真珠の違いが真珠を購入する一般人では判断できないようなわずかなものであれば、そうした一般人を対象とした真珠市場はその成立が難しいはずです。逆に一般人と熟練者で判断の仕方に違いが全く無いとすれば、真珠鑑定士という職業の意味を問い直さなければなりません。

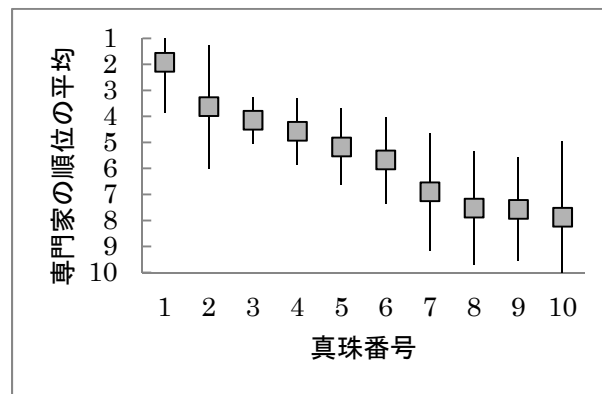
そこで、本研究では、同じ真珠を真珠に関わる専門家（男性8名、平均年齢 43.6 歳）と真珠に関する専門知識の無い一般人（男性11名、平均年齢 41.7 歳）のそれぞれに評価してもらい、その結果を統計的に分析・比較しました。評価対象の真珠は直径が8mmのAランク10個、Bランク10個の合計20個であり、AランクおよびBランクからそれぞれ5個ずつ選んだ10個の真珠2セットを準備しました。それぞれのセットについて、10個の真珠を机の上に置き、良いと思った順番に並べてもらうという課題を、各セットについて5回ずつ繰り返しました。なお、参加した専門家と一般人は評価に用いた真珠に関する知識は一切与えられていませんでした。



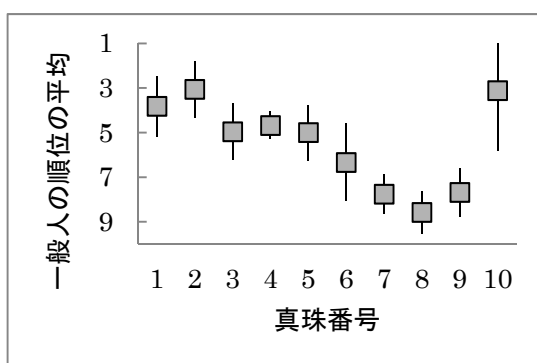
写真：専門家を対象とした真珠評価実験（平成23年11月三重県伊勢市にて）

今回の実験で明らかになったことは、以下のとおりです。

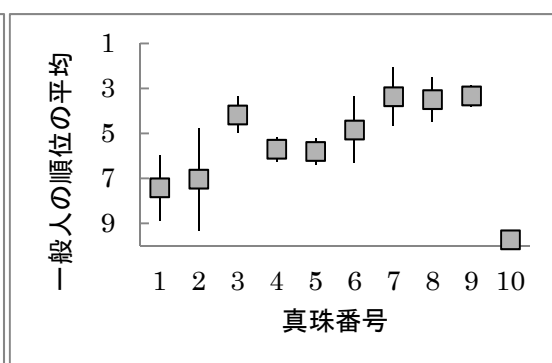
- 評価を繰り返したときに同じように評価できる安定性は熟練者と一般人で差があり、専門家による評価は一般人よりも安定している。
- また、専門家同士の評価は極めて高い一致を示しており、真珠品質に関して共通の判断基準を専門家間で共有している様子が伺えた。もちろん、真珠品質に関する制度的な共通基準は存在しないため、暗黙的な共通知識のようなものと考えられる。
- 一般人の約半数（11 名中 6 名）は、真珠品質の良し悪しの判断が専門家とは逆の傾向を示した（下図）。つまり、専門家が良いとする真珠を悪いと判断し、専門家が悪いと判断する真珠を良いと判断した。このことは、これら逆傾向を示した一般人が真珠の違いを区別できないのではなく、それぞれの真珠像の物理的な特徴量と品質の良し悪しに関わる価値との結びつけが専門家と逆であった。これらは経験により学習される可能性があると考えられる。



(a) 専門家



(b) 一般人（専門家と同傾向 5 名）



(c) 一般人（専門家と逆傾向 6 名）

図：10 個の真珠に対する品質順位の傾向

■は順位の平均値、線は標準偏差を示す。

専門家は真珠 1 から 10 に対して右下がりになる（1 が良い、10 が悪い）のに対して、実験に参加した一般人の 5 名は同じく右下がり、6 名は逆に右上がりの傾向を示した

以上の結果より、専門家はより正確に安定的に真珠像の特徴を捉えることができ、かつ真珠像の物理的性質と真珠の価値との結びつけに関する暗黙のルールを経験的に学習・共有していることが分かりました。また、専門的知識を持たない一般人も、専門家ほどではないものの、真珠の違いを区別することはある程度可能であることが分かりました。ただし、どのような真珠が良い真珠か、ということは経験によって学習される可能性が高いことも分かりました。

今後、熟練者のこうした能力が、どのような仕組みによって獲得・共有されるのか、良し悪しといった価値判断がどのように学習されるのか、等について、より詳細な検討を進めていく予定です。なお、本成果を米国オンライン科学誌プロスワンに発表します（現時点で掲載日未定）。

＜研究経緯・研究組織＞

研究経緯：本研究は文部科学省 科学研究費補助金 新学術領域研究（研究領域提案型）の「質感認知の環境依存性および学習依存性」（研究代表者：豊橋技術科学大学大学院工学研究科・中内茂樹教授）の下、三重県水産研究所の協力を得て行われました。平成 23 年 11 月に三重県志摩市、鳥羽市にて現地の熟練者の方々の協力により実験を実施、平成 25 年 7 月から 8 月に、豊橋技術科学大学の教職員の協力により一般人を対象とした実験を本学内にて実施しました。

研究組織：研究代表者（統括）は中内茂樹教授であり、実験計画の立案、協力者の調整、結果の解析を北崎充晃准教授、鯉田孝和特任准教授、永井岳大助教（現山形大学准教授）、谿雄祐研究員が担当しました。実験は、トラックを改造した移動型視覚心理物理実験室「モバイルラボ」を用い、谿雄祐研究員が中心となっており、実験補助者として大学院生も参画しました。

本研究者である本学谿雄祐研究員への個別取材も受け付けますので、ご希望の場合は下記担当までご連絡下さい。

本件に関する連絡先

担当者 総務課長 TEL:0532-44-6501

広報担当：総務課広報係 小島・荒井 TEL:0532-44-6506



国立大学法人豊橋技術科学大学 *Press Release*

平成25年12月17日

研究推進アドミニストレーションセンター（RAC）を設置

豊橋技術科学大学は、文部科学省「研究大学強化促進事業」の採択を受けて、12月1日に研究推進アドミニストレーションセンター（RAC）を設置しました。

【RAC組織とその役割】

○研究戦略室

国内外の学術研究動向・科学技術政策、社会のニーズ、学内の研究ポテンシャル等を分析し、全学的な研究戦略案の策定を行います。また、リサーチ・アドミニストレーター（URA）の継続的な育成プログラムを策定し実施します。



（左から原邦彦URAオフィス長、榊佳之学長、石田誠センター長）

※リサーチ・アドミニストレーター（URA）：研究マネジメント人材

○研究・産連推進室

大学として推進すべき国内外のプロジェクト等に対して、競争的資金獲得までの支援（プレ・アワード支援）および獲得後の支援（ポスト・アワード）等を行います。

○知財管理室

知財の創出から権利化・活用までの総合的な支援と、知財に関する産学連携活動支援を行います。国際特許・国際法務を専門に担当する職員を配置して、特許業務や契約業務のグローバル化に対応できる体制を整えます。

○技術科学支援室

異分野融合研究を支援するため、学内の共同利用機器を集中管理し、高度な技術を持つ専任教員や専門職員を配置します。このような技術科学面における支援機能は、学部・大学院教育とも連携します。

○URAオフィス

リサーチ・アドミニストレーター（URA）が各室へ室員として参画し、研究大学強化促進事業に関する取り組みの全般的な支援を行います。

今後、研究推進アドミニストレーションセンター（RAC）を中心とした研究大学強化促進事業を実施するため、①価値創造型工学の創成に資する研究の推進、②分野・組織の垣根を越えた異分野融合研究の場の創出、③若手教員等の人材育成・獲得の促進に向け、活動を推進していきます。

本件に関する連絡先

担当者 研究協力課長 萩平 弘 TEL:0532-44-6570
広報担当：総務課広報係 小島・荒井 TEL:0532-44-6506

地域地震 防災コース

2014年2月5日(水)開講(全4回)

受講生募集!!

参加費無料

豊橋技術科学大学 安全安心地域共創リサーチセンターが
中心となり、東三河地域の企業・自治体等において災害時
に活躍できる防災の担い手を養成するためのコースを開設
します。地震・津波・液状化等の現象の理解や、被害予測
のための調査・分析、災害発生後の業務継続や早期復旧の
ための基礎知識となる講義(全4回)を行います。

1 (土)

2 (日)

3 (月)

4 (火)

5 (水)

開講式

18:00~20:00

6 (木)

7 (金)

8 (土)

9 (日)

10 (月)

11 (火・祝)

12 (水)

18:00~19:30

13 (木)

14 (金)

15 (土)

16 (日)

17 (月)

18 (火)

19 (水)

18:00~19:30

20 (木)

21 (金)

22 (土)

23 (日)

24 (月)

25 (火)

26 (水)

18:00~20:00
修子式

27 (木)

28 (金)

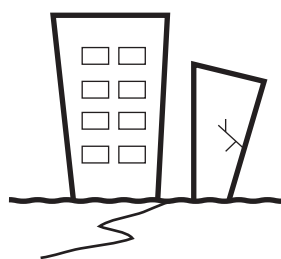
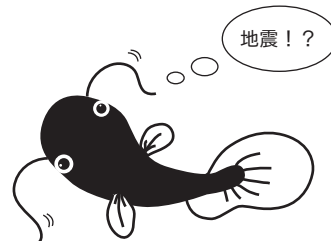
基礎から学ぶ地震と防災

講義1

2月5日(水) 18:00~20:00

講師: 齊藤 大樹 (建築・都市システム学系・教授)

キーワード: 地震発生の仕組み、地震・津波被害の特徴
地震リスクと建物の安全性、地震対策の今



基礎から学ぶ建物・地盤の地震対策

講義2

2月12日(水) 18:00~19:30

講師: 中澤 祥二 (建築・都市システム学系・教授)

キーワード: 地震被害、地震時の挙動、
耐震設計の考え方、地震対策

基礎から学ぶ津波・高潮

講義3

2月19日(水) 18:00~19:30

講師: 加藤 茂 (建築・都市システム学系・准教授)

キーワード: 津波・高潮の発生の仕組み、津波と高潮の違い
津波と普通の波の違い、津波・高潮と沿岸災害



基礎から学ぶ地震への備えと行動

講義4

2月26日(水) 18:00~20:00

講師: 増田 幸宏 (建築・都市システム学系・准教授)

キーワード: 事業継続計画(BCP)、リスク管理
避難と生活、まちの防災力

本コースは、平成25年度「成長分野等における中核的人材養成の戦略的推進」事業(文部科学省)です。

時間: 18:00~19:30 (初回と最終回は20:00まで) 会場: ライフポートとよはし (予定)

募集対象: 企業・自治体等に勤務されている方 定員: 50名(先着順) * 3回以上受講された方には修了証書を授与

応募〆切: 平成26年1月24日(金) 申込方法: 裏面の「受講申込書」をお使いください。

お問い合わせ: 電話: 0532-81-5157 / E-mail: kouza@carm.tut.ac.jp (担当: 穂苅)

平成 25 年度 地域地震防災コース

受講申込書

この用紙に必要事項をご記入の上、FAX か e-mail にてご連絡ください。

(申込締切：平成 26 年 1 月 24 日 (金))

太枠のなかを記入してください。

ふりがな お名前			ご年齢
			歳
会社名			
所属・役職			
電話番号			
E-mail アドレス または FAX 番号	E-mail		@
	FAX 番号	—	—
受講者番号		受付日	

申込先

豊橋技術科学大学 安全安心地域共創リサーチセンター（担当：穂苅）

FAX : 0532-44-6568 / e-mail: kouza@carm.tut.ac.jp

－受講にあたっての注意事項－（申し込み前にお読みください）

1. 所定のカリキュラムを修了した方には、修了証書を授与します。
(ただし、全4回の講義のうち、3回以上受講された方のみ)
2. 全4回を1セットとしていますので、単独の講義のみの受付はいたしません。
3. 申込者の個人情報は、本コース以外の目的で使用することはありません。

平成25年度 定例記者会見日程予定

- 第1回 平成25年 4月17日（水） 11：00～
- 第2回 平成25年 5月22日（水） 11：00～
- 第3回 平成25年 6月20日（木） 11：00～
- 第4回 平成25年 8月 7日（水） 11：00～
- 第5回 平成25年 9月18日（水） 11：00～
- 第6回 平成25年10月16日（水） 11：00～
- 第7回 平成25年12月25日（水） 11：00～
- 第8回 平成26年 1月22日（水） 11：00～
- 第9回 平成26年 2月19日（水） 11：00～
- 第10回 平成26年 3月19日（水） 11：00～

場所はすべて本学大会議室（事務局3階）を予定しています。場所、日程は現時点での予定であり、都合によって変更の場合があります。定例以外に臨時で記者会見を行う場合があります。

以上